

新スポーツセンター基本構想検討会（第2回） 要点記録

日 時：平成30年8月30日（木）午後6時00分～午後7時45分

会 場：千代田区役所8階第2委員会室

委 員：木村和彦（委員長）、横田匡俊（副委員長）、植田浩敏、中村あけみ、浅岡寿郎、松野大樹、高橋美智子、坂井重正、安達宣郎、土屋勝彦、込山理子、松田友治、高橋直道、小川賢太郎、亀割岳彦、緒方直美（敬称略）

欠席委員：菅野豊（敬称略）

事務局：生涯学習・スポーツ課、株式会社東京ランドスケープ研究所

傍聴者：1名

配布資料：第2回 新スポーツセンター基本構想検討会 次第

資料—1 第1回検討会での意見及び現地調査について

資料—2 新スポーツセンターの課題・求められる機能などについて

議 事：

1 開会

（事務局より、本日菅野委員が欠席の旨説明、傍聴者1名の報告、配布資料、本日の議題確認）

2 議題（注：下線部は別紙、意見の概要に反映）

（1）第1回検討会での意見の確認及び現地調査の確認

（受託事業者より資料—1をもとに第1回検討会での意見及び現地調査について説明）

委員長：資料—1について、質問等がありましたらお願いいたします。

土屋委員：現地調査について、葛飾区は水元と奥戸と2か所あり、墨田区も総合体育館のほか両国にも同様の施設があります。見学した2施設はどれも素晴らしい施設でしたが、千代田区のスポーツセンターは限られた面積条件の中でつくる必要があるため、今回視察したところが類似した事例だったかどうか、見たものがどう役に立つか疑問です。もっと身近なものが見たかったです。

事務局：現地調査は限られた時間で割と新しい施設を対象として選定いたしました。ご意見として承りたいと思います。

委員長：今は現地に行かずとも、インターネットなどで情報収集ができます。事務局より限られた時間の中でとあったように現地調査についてはこれぐらいでよいのではないのでしょうか。

土屋委員：話は少しそれますが、区内にふじみこどもひろばがありますが、面積はどれくらいでしょうか。広さがある一方で草がたくさん生えているところで、こんなところにスポーツセンターが有ったらいいと思いました。

小川委員：ふじみこどもひろばは衆議院議員の宿舎の跡地で、全体で6,000㎡から7,000㎡ほどあるうちの一部を暫定的に区が借りている状態です。更にそのうちの300㎡を保育園の専用園庭として使用できるように現在困っています。正確な規模は今この場で申し上げるのが難しいですが、元々国の所有であり、区が自由に使える土地ではないということをご理解いただきたいと思います。

(2) 新スポーツセンターの課題・求められる機能などについて

委員長：それでは、受託事業者は資料の説明をお願いします。

(受託事業者より資料—2をもとに「I 千代田区立スポーツセンターの現況」について説明)

委員長：資料—2の千代田区立スポーツセンターの現況について、確認あるいは質問等がありましたらお願いいたします。

土屋委員：水元総合スポーツセンターは、たった一人でも施設を借りて練習できていたのがすごいと思いました。千代田は一人で施設を利用したいと言っても、安全性等を理由としてほとんどできません。こういった使い方ができると千代田の利用の数字も変わってくると思いますが、将来的に利用をどう考えていますか。

小川委員：ご指摘をありがとうございます。今の使われ方として現行のルールに基づき使われているのは事実かと思いますが、そのような意見などもあると思うので、今後のあり方として先般の見学先での気づきとして、別の使い方もあるということを含め、別の機会にて今後、ぜひご議論のご協力をいただきたいと思います。

委員長：2ページ目の利用状況について、施設ごとにそれ専用の利用がされているか、確認をお願いいたします。また、トレーニングルームの稼働率や利用状況について、確認をお願いいたします。利用率から、トレーニングルームの面積は設定できますか。

松田委員：スポーツクラブではその施設面積に何人来てもらいたいかをあらかじめ設定します。剣道場や柔道場はそういったことを適用することは難しいと思いますが、トレーニングマシンは設置しているマシンなどから利用者を設定できるかと思います。40分から60分の利用として、3～5種程度のマシン、それを1ローテで朝から晩まで使う、といったことで利用想定人数を算定します。

委員長：おっしゃる内容であれば利用率が把握できると考えてよいですか。利用状況についてデータが出ていない箇所は、改めて事務局で確認をお願いします。アンケート調査はどのように実施していますか。

受託事業者：指定管理者が毎年2月に来館した利用者を対象にアンケートを実施しているとのことです。

委員長：アンケート実施時期は2月とのことですが閑散期であり、サンプルとしては少ないように思います。また、移動時間は、どこからの移動時間でしょうか。自宅というほかに、職場からの利用ということも考えられますがその割合はわかりますか。

小川委員：職場は近いが自宅は遠い人もいるので、うまく把握できているとは言えないと思います。

受託事業者：指定管理者に確認いたします。

副委員長：データがない場合は、この施設についてこの時間は空いている・混んでいるといった指定管理者の感想なども参考になると思います。

委員長：できる限りで、先ほどの内容について確認をお願いいたします。

受託事業者：承知いたしました。

委員 長：それでは、受託事業者は次の資料の説明をお願いします。

(受託事業者より資料—2をもとに「Ⅱ 課題の抽出と整理」について説明)

委員 長：ありがとうございます。たたき台として事務局で用意したものを説明頂いたわけですが、意見や質問等がありましたらお願いいたします。

土屋委員：オリンピック時の外国選手の練習会場として、千代田区は何か協力するのでしょうか。

事務局：バドミントンは公式練習会場として千代田区立スポーツセンターを使用したいと、大会組織委員会などから打診がありました。現状のままで使用について了解の返答をしましたが、使用したいと正式な回答は現在まだ得られていません。

土屋委員：現施設は練習するにあたっての施設基準等を満たしているのでしょうか。

事務局：正式には、基準に合致していません。

土屋委員：弓道やアーチェリーは3位などいい成績を残していますが、弓道は練習ができない。各種の区民大会など千代田区内でできないことが多い。そういった課題も踏まえてほしい。基準は満たすようお願いしたいです。

委員 長：区民大会が各種できるようにというのはもったもな意見だと思います。

坂井委員：建設候補地をどうするかということも課題です。小川広場は候補地から外れましたが、旧練成中学校は4階までしか建てられません。神田駅西口地区の開発事業で5.8haの土地に公共の場所をつくるという話があり、スポーツセンターはどうかという話もあります。広さは確保できると思いますので、こちらも検討してはどうでしょうか。

小川委員：まちづくりの中でそのような話があることは承知していますが、どうなるのかが見当がつかない現時点では、まず候補地ありきではなく、スポーツセンターは何を目指すのかを議論したいと思います。

委員 長：3)の⑯で、生涯学習とスポーツを別扱いと捉えているというのはどう解釈したらよいですか。

受託事業者：生涯学習施設、スポーツ施設をそれぞれの目的でのみ利用しているということです。

委員 長：5)の⑤では区内に多く立地する民間スポーツ施設との役割分担とありますが、これがあれば議論がしやすいと思います。具体の情報がありますか。

受託事業者：インターネット等で公開されている情報では地図等にプロット等したものはあります。

委員 長：民間施設との両立をどう図るかは重要ですので、ぜひ確認をお願いします。

高橋(美)委員：すばすた会員は区内外で何人、現状でいるのでしょうか。また、会員料金についても教えてください。

緒方委員：すばすた会員料金は、一般は5,000円ですが、区内在住で15歳以上の方が4,000円、また区内在住の60歳以上の方は3,000円です。人数は改めて確認します。

副委員長：資料では課題整理の内容が、スポーツセンターに偏りすぎているように思います。区や行政など全体で広く見たときの課題も共有したいです。区で過去に関連のアンケート調査など実施しているのではないのでしょうか。

委員 長：副委員長の視点は非常に重要です。ぜひ確認の検討をお願いします。

委員 長：それでは、受託事業者は次の資料の説明をお願いします。

(受託事業者より資料—2をもとに「Ⅲ 基本的考え方」について説明)

委員 長：ありがとうございます。意見や質問等がありましたらお願いいたします。

土屋委員：区に関連計画では「すべての区民」とありますが、子ども、高齢者施設は区内に多くあります。スポーツ施設とは何か、をまず考え、そこから子どもや高齢者がどう利用するのかを考えるべきではないでしょうか。今の求められる機能を全て取り入れると、今の倍以上の敷地面積が必要になるのではと不安に感じます。

委員 長：もう少し、資料 p. 6 の (3) で、スポーツの部分を強調して検討すべきということですね。

高橋 (直) 委員：整備方針の記載事項については、スポーツの設備がいるのか、ソフトがいるのかのどちらについて言っているのでしょうか。

受託事業者：方針なのでハード・ソフトどちらとはしていません。今は必要な機能として幅広く、プログラムを含めご議論いただきたいと思います。

副委員長：資料に「見る」スポーツの記載がないですが、いらぬというスタンスでしょうか。

受託事業者：必要な視点だと思えますので、分かりやすく整理します。

委員 長：ぜひ見るスポーツについても検討をお願いします。視察先でもガラス張りであったりしましたが、プロ野球等だけでなく、親が子を見るスポーツの視点でも考えたいと思えます。

副委員長：コンセプトで幅広い区民とありますが、区民には在勤者等も含みますか。

小川委員：区では他の施策でもそうですが、区民は在勤・在学の方も含むことが多いです。コンセプトにある幅広い区民も、同様として進めたいと思えます。

土屋委員：幅広い区民というのは、千代田区内のスポーツ活動等に関わる全てを含めてはいかがでしょうか。また、武道場は畳が自動で準備でき、多様な利用ができる他の事例がありますが、柔道や剣道、異種競技で畳の性能が全く同じというのは、怪我などを含め使いづらいのではと思えます。足立区ではスタジオに土俵がせり上がるよう整備され相撲場としても使えますが、スタジオとして使っているところを見たことがありません。

委員 長：複合利用、実際作ったにも関わらず使われないことがあるということについて、確認する必要があります。使い勝手が良いなら活用を検討したらどうかと思います。個人的にはプールは可動床式が良いと思えます。

土屋委員：確かに、あれは良いですね。

安達委員：コンセプトはどのことについても配慮し、取り入れた表現になっています。一般的に建物を建てる時はよくやることで受けもよいですが、3、4年も経つと費用対効果、ランニングコストが課題として利用しない区民から声が上がります。提言書の基本方針で挙げた6つの項目は重要で、特にコストセンターの視点が重要です。スポーツセンターの第1から第3集会室、料理教室の使い方、主競技場では公式戦、来賓や記者のためにメインコートに会議室を設けると施設の併用ができるようになります。クラブハウスがあれば交流ができます。ど

ここに視点を置くか。多様性の考え方を、ある対象について多様とするのか、まんべんなく多様にするかで大きく変わります。軸になるところから考えた方がいいと思います。

委員長：どこに機能を入れ込むかは検討が必要です。省エネ、コストのほか、長寿化できる機能といったものもあります。また、普段利用しない方々の視点でも検討したいです。

安達委員：参考で指定管理やPFIについて触れていますが、これも検討するのでしょうか。

受託事業者：建物をつくって終わりではなく、運営にもご意見をいただきたいと思います。ただし、今回は議論の呼び水としての資料となっています。

松野委員：機能はどれだけの人が利用するのでしょうか。いざつくったら無駄になるといったこともあるのではと思います。

委員長：今回の検討会はあくまでもたたき台ですので、各委員の経験や立場を基に、これはいる、いらないなど、忌憚のないご意見をお願いします。

副委員長：最新テクノロジーの導入は外せないと思います。ビッグヘルスデータなどやってほしいです。最近では大阪のスタジアムアリーナで、スポーツビジネスの最前線を知る総合イベントが開かれています。いろんな企業が力を入れており、取り入れられるものは取り入れるべきと思います。

委員長：関連ではeスポーツもあります。どういった技術があるか確認していきたいですね。

浅岡委員：学校教育の視点では、子どもたちにスポーツを通して夢を持ってほしいと思います。小中学校ではアスリート交流を実施しており、アスリートの思いを伝える機会を設けています。見る視点では2020年の後もスポーツセンターに出向き、区民大会出場を夢見る、そういった場にしたいと思います。千代田区は小学校が8校、中学校が2校、中等教育学校が1校しかありませんが、子どもに夢と感動を与えるスポーツセンターにしたいです。

委員長：現状のスポーツセンターでは、子どもの利用状況はどうでしょうか。

浅岡委員：今は少ないですが、地域主導でミニバスケット、相撲、ドッジボール、剣道などの大会が行われています。観戦できるスペースがあれば、本物に出会える機会を増やす、体感できる場所があればと思います。

委員長：本物に出会え、体感できるというのは非常に大事ですね。

安達委員：高齢者のための健康づくりを、医療を含めて検討していますが、今のメンバーには医者などの専門家がない状況です。今後専門家の意見があればスポーツセンターも利用しやすいと思います。これだけ委員で幅広くやっているのに、それぞれが横につながって検討できたらいいですね。参加が少ないという声もこれまでにありましたが、横つながりで参加しやすいプログラムとなることもある。横つながりへの情報発信と共有ができるよう検討すべきだと思います。

委員長：コミュニティバスも、ある意味で横につながるツールですね。スポーツセンターはルートに入っていたりしますか。

小川委員：入っています。ただし、当該バスは正確には地域福祉のための交通という位置づけです。実質的にはコミュニティバスの役割も担っているとは思いますが。

植田委員：スポーツ推進委員の立場で言えば、子どもを対象とした大会は保護者が多く来ます。PTA 主宰の大会というのもあります。子どもが集まって打ち上げや懇親会ができる飲食スペースがあるといいと思います。観覧席は現在融通しあってうまくやっていますが、四方で見れたらもっと盛り上がるだろうし、バレーボールは審判席が高いので、観覧席から近く、観覧席からの声援やヤジを間近に聞きながら試合を進めるため大変です。屋上は、この夏は特に暑いですが、子どもはそれでもやりたがるので、ミストとかの対策や、3オン3のほかのミニスポーツもできるようになればと思います。e スポーツは収入を得るにはよいのではと思います。

委員長：中高生については、区の部活の加入率はどうでしょうか。全国的には中学は運動部が6～7割に及びますが、高校になると4割に低下します。都市部はもっと少ない傾向にあります。6～7割の高校生は運動をしていないということです。この運動しない高校生は普段どんな生活をしているのか、この人達にとってスポーツセンターはどうあるべきか。アクティブライフの場づくりを他の区がどういった働きかけをしているかが気になります。例えばスケートボードやマウンテンバイクなどの練習会場は日本では少ない。いわゆる若者向けスポーツというものは、千代田区に限らず全国的に遅れています。

亀割委員：総論的には、区の基本計画のすべてを実現したら敷地がいくらあっても足りないと思います。区では様々な施策があり、例えば高齢者はお年寄り専門のジムがあります。また中高生は特別に中高生タイムという時間を設定し、バスケットボールやフットサルなどができる時間を設けています。区全体にどういったスポーツの施策があるかを整理した上で、それ以外にスポーツセンターで公式行事などができる機能は何か、全体で大きな目的をスポーツセンターが果たすためにはどのような機能が必要か、といった議論ができると思います。

委員長：他の行政施策について、どんな取り組みや機能があるのか把握できないでしょうか。

坂井委員：最終的にはどこにスポーツセンターをつくるのかということになるのでは。

小川委員：場所選定はなかなか難しいところがあり、今はどんなものがあるかを議論したいと思います。体育の受け皿が区内にどれだけあって、どんな取り組みが行われているか、そこから、何が区内に足りなくて、スポーツセンターで何が必要なのか、望まれているのかを鮮明にしていくことがまずは必要だと思います。

土屋委員：各機能の天井高がどれだけ必要か、機能上での必要性も検討すべきと思います。

植田委員：スポーツセンターは現在、スポーツ施設、避難所、区民集会施設の位置づけとなっていますが、これは新しいスポーツセンターでも同じものがあるとお考えですか。

小川委員：今ある機能を中心にということもあるかと思いますが、今後、一部を他の施設に集約するということもあり得ると考えています。ここでしかできないという視点も大切です。他でできる、できないについて議論を進めたいと思います。

松野委員：スポーツ、学習など、区内でどこがありどういった機能になっているのかなどのデータは把握されていますか。それがあれば議論しやすいと思います。

小川委員：あらかた承知はしていますが、議論には各部署に確認が必要なので、すぐには出せない状況です。

委員 長：次回検討会では俯瞰の話とするために、他の関連施設や機能についての情報の提示をお願いしたいと思います。

高橋(美)委員：障がい者も皆さんと関わるために見る視点が重要です。視察では観覧席に車いすのスペースがなかったので、これにも配慮をお願いしたいです。

委員 長：見ることから始めても良いかもしれない、そのために車いすで見る場を、と非常に貴重なご意見です。

込山委員：子どもや高齢者をいかに呼ぶかということをやっているように感じますが、小中学校にどんな施設をつくるべきなのでしょうか。私はスポーツセンターにはスポーツをしない人にも来てほしいし、その人々のために何がいるのか、魅力に感じるのかを考えたら、お弁当を食べるフリースペースやカフェ、夜景が眺められるジャグジーや温泉などがあるかと思います。

委員 長：スポーツしない人にも魅力的なサービスについて、例えばヨーロッパでは類似する施設にレストランが入っていますが町一番の人気レストランだったりします。ただの食事の場ではないのです。地場産品を使うという切り口もあると思いますが、区の地場産品はどのようなものがありますか。

松野委員：私は区民ですが、千代田区は特別区で唯一の環境モデル都市です。緑が多い、緑を使ったもの、環境に配慮した取り組みがあるのが区の特徴であり、取り入れてはどうでしょうか。

委員 長：区のシンボルとなる施設を、という話もありましたので、そういったことに関連するよい意見だと思います。

緒方委員：環境モデル都市としての取り組みの一例では、現在千代田エコシステム推進協議会で日比谷図書文化館の屋上で養蜂を実践しています。将来的には取れた蜜を地場産品にしていければと思います。

亀割委員：区では公共施設の建て替え時に CO2 発生を半分にする取組を行っており、そういった環境配慮も取り入れることとなろうかと思います。

高橋(直)委員：健康づくり機能として、トレーニングルームの機能だけだと、筋トレなどのイメージが先行し、利用者が偏る可能性がありますので、「身体の機能改善の施設」程度のほうが、スポーツしない人でも通いやすくなるのではと思います。

委員 長：今日も皆様の熱心のご検討をありがとうございます。それでは議題の「新スポーツセンターの課題・求められる機能などについて」は以上でよろしいでしょうか。それでは、本日すべての議題が終了いたしました。進行を事務局に返します。

3 その他

第3回検討会の開催日時を10月3日(水)18時から20時に実施する予定であり、詳細は追って委員に通知する旨を報告。

4 閉会

新スポーツセンター基本構想検討会（第2回） 頂いた意見の概要

※要点記録、下線部の項目についてとりまとめ

1. 確認事項

- ①施設の主目的以外の利用状況（施設ごとにそれ専用の利用がされているか）について確認する。
- ②トレーニングルームなど利用状況でデータが出ていない箇所について確認する。
- ③利用者アンケートにおいて移動時間の回答が自宅からか職場からかの詳細を確認する。
- ④区内の民間・他公共のスポーツ施設の位置と内容について確認する。
- ⑤すばすた会員の会員数、区内・外の会員数と割合について確認する。
- ⑥区で過去に実施したスポーツ関連のアンケート調査等があるか確認する。
- ⑦区の中高生の部活の加入率について確認する。
- ⑧区における他のスポーツ関連行政施策や取り組み等について確認する。

2. 新スポーツセンターの課題・求められる機能などについて

1) 基本的考え方に関すること

- ①幅広い区民とは、在勤・在学の方も含める。
- ②幅広い区民に、区内のスポーツ活動等に関わる全ての方々を含めてはどうか。
- ③スポーツセンターだけでなく、他の関連施設や機能について確認し、民間や他公共スポーツ施設との役割分担を検討する。
- ④基本的考え方について、「見る」スポーツの視点も加えてわかりやすく整理する。
- ⑤体育の受け皿が区内にどれだけあり、どんな取り組みが行われているか、何が区内に足りなくて、スポーツセンターで何が必要なのか、望まれているのかを鮮明にしていくことが必要である。
- ⑥現スポーツセンターの位置づけにあるスポーツ施設、避難所、区民集会施設は今後、一部を他の施設に集約するということもあり得るため、ここでしかできないという視点で、他でできる、できないについて議論を進めたい。
- ⑦費用対効果、ランニングコストなどのコストセンターの視点が重要である。
- ⑧区の基本計画のすべてを実現したら敷地がいくらあっても足りないため、施策を把握したうえで、スポーツセンターで公式行事などができる機能、全体で大きな目的をスポーツセンターが果たすためにはどのような機能が必要か、などを議論すべきである。

2) スポーツ施設に関すること

- ①安全性等を理由に、ほとんど一人で施設を利用できない。
- ②求められる機能について、スポーツの部分を強調して検討すべきである。
- ③施設が競技種目の基準に満たされていないなどで、各種の区民大会などが千代田区内でできないことが多い。
- ④柔道や剣道、異種競技で畳の性能が全く同じというのは、怪我などを含め使いづらいのではないか。
- ⑤プールは可動床式が良いのではないか。
- ⑥主競技場では公式戦、来賓や記者のためにメインコートに会議室を設けると施設の併用ができるようになる。クラブハウスがあれば交流ができる。

- ⑦2020年の後も出向き、区民大会出場を夢見るなど、スポーツを通じて子どもたちに夢と感動を与えられるよう、観戦できるスペースや本物に出会える機会を増やし、本物を体感できる場所となるスポーツセンターにしたい。
- ⑨eスポーツは収入を得るにはよいのでは。
- ⑩eスポーツでどのような技術があるか確認していきたい。
- ⑪スケートボードやマウンテンバイクなどの若者向けスポーツは、全国的に遅れており、練習場も少ない。
- ⑫バレーボールの審判席は現在の観覧席に近く、進行が大変だと思う。
- ⑬屋上を利用する場合は3オン3のほかのミニスポーツもできるようになればと思う。
- ⑭各機能の天井高がどれだけ必要か、機能上での必要性も検討すべきである。

3) 健康づくりに関すること

- ①スポーツセンターの利用について、医療などの専門家の意見も聞きたい。
- ②横つながりへの情報発信と共有ができるよう検討すべきである。
- ③健康づくり機能として、スポーツしない人でも通いやすくなるよう、トレーニングルームの機能だけでなく、「身体の機能改善の施設」程度の機能を設けてはどうか。
- ④ビッグヘルスデータなど、最新テクノロジーについて取り入れられるものは取り入れるべきである。

4) 地域交流に関すること

- ①スポーツをしない人にも来てほしい。これらの人々にも魅力を感じてもらえる飲食やフリースペース、温浴、地場産品を使う等の施設やサービスなども検討すべき。
- ②子どもが集まって打ち上げや懇親会ができる飲食スペースがあるとよい。

5) 快適性・使いやすさに関すること

- ①都市部の6～7割の高校生は運動しておらず、この人達にとってスポーツセンターはどうあるべきか。
- ②多様性の考え方は、ある対象について多様とするのか、まんべんなく多様にするかで大きく変わる。
- ③障がい者の「見る」スポーツの視点として、観覧席に車いすのスペースを設けてほしい。
- ④観覧席は四方で見れたらもっと盛り上がると思う。
- ⑤屋上を利用する場合はミストなどの暑熱対策が必要と思う。

6) まちづくりに関すること

- ①千代田区は特別区で唯一の環境モデル都市で、緑が多い、緑を使ったもの、環境に配慮した取り組みがあるのが区の特徴であり、取り入れてはどうか。
- ②環境モデル都市としての取り組み例として施設屋上での養蜂実践があり、将来的には取れた蜜を地場産品にしていければと思う。
- ③公共施設の建て替え時にCO2発生を半分にする取組などの環境配慮も取り入れていく。

以上